

みんなで語る会報告書

開催日時 平成25年8月9日(金) (19時00分～20時30分)
開催場所 柳田校区公民館
参加者数 市民…33人
指宿市…市長他14人

総計48人

会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 閉会

意見交換内容

【市民】

・先月、ツマベニチョウを大切にする会を立ち上げた。今回は共生協働資金を活用し、産業まつりでギョボクの苗1,500鉢を配布しようと思っている。ツマベニチョウの減少について、鹿児島大学などに行政からお願いをして調査できないものか。市の指定の蝶でもあり、市章にもなっているもので何とかしたい。

・小・中学校に、ツマベニチョウを育てるためのハウスがあるが、どこもボロボロになっている。柳田小学校は卒業生が新しく造ってくれたようだが、それも天井がボロボロになっていた。私たちは調査や保護はできるが、どうしてもお金がない。指宿市としても、大切にしていけないものか。

<市長>

・ツマベニチョウは指宿を代表する蝶で、市章にもなっている。民間ではできない部分を、市も一緒になって対応すべきだと思う。まず、ツマベニチョウの調査をすぐに行いたい。県の博物館には、専門家である福田 晴夫先生がいる。先生に連絡をとり、どのような方法があるのか、どうしたらよいのかといった研修をする機会を設けたい。

・小学校のハウスがそのような状況であれば、教育委員会等で早速、対応をしなければならないと思う。

<教育部長>

・予算編成の前に学校からの要望をいただくが、その中にハウスの関係はない。調査を行い、検討したい。

【市民】

・指宿図書館と山川図書館に発見箱を作り、ツマベニチョウを発見した場所をみんなに印をしておらおうと思っている。それによって、どの辺にいるかわかる。また、ギョボクを誰がどの辺に植えているかの調査を始めた。山川でも保護をする体制ができているようであるので、そういう方々とも協力できるよう、市が引っ張ってもらえるとありがたい。

<市長>

・一生懸命、頑張っている方のご意見であった。非常に重く受け止めている。このツマベニチョウの保護については、市も積極的に関わって一緒にやっていきたいと思う。

<教育長>

・以前、飼育舎があったということは、それなりの知識を持った先生がいてやっていたのだろう。柳田小学校だけではなく、徳光小学校にもあった。今後も学校でできるのか、それとも地域の人の手伝いをしながらやっていくのかということも考えながら検討したい。

【市民】

・柳田校区には市が管理する公園が一つもないので、ぜひ柳田校区にも一つ二つ造って欲しい。二月田駅の裏の方に造ろうという市の計画があるというのは聞いているが、温湯や高野原からは遠い気がする。3月議会での永田川の休耕田に公園を考えて欲しいという意見に対し、必要であるとの答弁であったが、どのような形で進めていくのか。また、永田川の改修は県の方になるのか。柳田校区の温湯、木之下だけではなく、それを取り巻く道上、道下、田之畑等からも集まりやすい所で、市が進めている健幸づくりのためにも必要であると思う。農政関係からのアンケートを行いながら、ぜひ進めてもらいたい。

<市長>

・東方地区の公民館長さんや防犯組合の方々から、永田の田んぼをよくしたら、地域はこんなによくなるという強い思い、熱い夢を聞く機会がたくさんあった。今日、市役所でも、永田の田んぼをどうしていくのか、どういう利用方法があるのかということ具体的に話し合った。確かあの地域は、指宿校区を含めると11集落が500m以内で行ける距離にある。あと10年、15年すると、あの限界で高齢者が何%になるのか。グラウンドゴルフや散歩ができるコースができると、どのように健康の面で役立つのか。国民健康保険の特別会計は、大変な赤字である。3～4年前は71～72億円であったが、今年は78～79億円になる。わずか3年で7～8億円も増加している。保険料を上げるわけにもいかず、一般財源からその補填をしなければならない。やはり、そういうことを考えると、みんなが集って元気に運動や語らいができる場というのは、子どもの公園を含めて必要だろうと思う。元気な柳田校区をつくることで、医療費も減るだろう。そのためにも、事業をしなければならないと思っている。利用については、農政部でも案があったようである。今後、皆さんの意見を聞きながら、活用方法を考えなければならないと思っている。

<農政部長>

・永田の田んぼは面積が約9町歩、地権者が約120名、土地の筆数が約200筆、1筆当たり4畝ほどの水田である。平成7年頃に、農業農村モデル事業という総合整備事業で、水田の活性化を目的に計画して進めた。当初、区画整理をしながら、皆さんから土地の一部を提供していただき約3反分の公園を併せて造っていくという計画であったが、土地所有者の同意率が30%ほどであったため、その事業を断念した経緯がある。これまで指宿土地改良区が、新田川の所も含めて水田を作ったりしていたが、米も作らなくなり耕作放棄地化している部分もある一方で、地域の方々が花植えをしたり景観整備をしたりしている部分もある。そこで、農業委員会は耕作放棄地対策を含め、一部でも今の荒地が解消できないかということで土地の集約等も含めた形でのアンケート調査の準備を進めており、耕地サイドとしても、今後の整備を土地所有者がどのように考えているかご意見を聞きながら、今後の方針等に役立てていきたいということで一緒に進めている。

<市長>

・あのままではいけないというのが、皆さん共通の思いだろう。早速動き出すために、色々な計画を練りたいと思う。計画当初も公園を造ろうという構想があったが、土地の所有者の同意が得られずに断念した経緯がある。しかし、あの区画については、皆さんの意見を聞きながら整備をしていかなければならない。そのために、土地の所有者の意見を聞こうということである。公園を含め、農地の活用方法については、今後考えていくことになる。この件について、他にご意見はないか。

【市民】

・単なる公園ではなく、近隣のお年寄りが気楽に出かけ、楽しく過ごせるようなサロンのようなものを造り、そこに放課後の子どもたちが集って、老人に生きがいを感じてもらいたい。また、二反田川沿いの河川工事を県が行っており、工事費用は40億円ほどと聞いている。永田の田んぼの中に、ひょうたん池と同じような調整池を作っただけであれば、水の安全確保もできるのではないかなと思う。北指宿中学校区の方々が、気軽に健康のための運動をしたり、みんなで楽しんだり、農協に縁のない方が自分の庭で作った農産物を展示・販売したりと幅の広い施設を造ってもらいたい。

<市長>

・農地として整備した経緯があるため、これまでの農業の流れは大切にしなければならない。農地を利用して、お年寄りがみんなで何かを作り、それを売るといったような農業を核にした健幸づくりや、歩いたり、話したり、集ったりできるような場所づくりなど、色々な方面から検討を始めて

いるところである。また、ご意見等をいただきたい。

【市民】

・市長と語る会について、回覧や放送等で周知を図ったが参加者が少ない。公民館長と市長の語る会のようになっているので、この会の在り方をもう少し考えないといけないのではないか。

・公民館のトイレを水洗にしたりすると、市から総工費の10%が補助される。去年、宮地区でも水洗化を行い、180万円の総工費に対し18万円の補助があった。確かに公民館は地域で運営するのが当たり前であるが、我々の所はお年寄りも多く財源があるわけでもない。個人の住宅を改造するときには、浄化槽設置に40～50万円の補助があるのに、なぜ公民館には出ないのか質問したが受け入れられなかった。公民館から要望については、ある程度考えていただきたい。

・宮・上玉利線という、宮から玉利の方に抜ける市道があり、子どもたちの通学路にもなっている。また、湯之里園もあるため、小さな道路だが朝になると職員の車や送迎の車が多く非常に危険な状態である。木々が道路に覆いかぶさっている場所もあったので、土木課に現場を確認してから電話をもらうように要望していたが、何も連絡がない。防犯組合の清掃活動で1m50cm位まではできるが、それより上は届かない。その後の処分も我々にはできないということを伝え、とりあえず草払いや伐採してもらいたいとお願いした。要望に対する何らかの回答はいただきたい。

・この道路が広くなれば、ある程度大きな車が宮地区の中でも通れるようになるので、50～60cmなら市に売っても構わないという話があったので市に相談したが、2mもない里道には対応ができないということであった。その状況に応じて、行政も対応していただきたい。

<市長>

・公民館長さん方が、市役所に要望を言うのは勇気がいることだと思うし、本当に思いが強いから市役所に来てくださる。その要望に対し、やるやらないは別にして、早く回答をするよう全ての課に再度、指導をしたい。

・お年寄りがたくさん集い楽しめるよう、公民館のトイレを洋式に替えるというのはその通りだと思う。市営陸上競技場でも、洋式トイレや、子どもを連れて来てもおむつ交換ができ、着替えや簡単な化粧もできるような多機能トイレの改修をしている。今後、高齢社会と言われるこの時代に、どこに行っても安心して用が足せるようトイレは大切だろうと思う。

<市民生活部長>

・公民館施設の改修工事については10%の建設補助金を出している。各地区でも同じような状況にあり、多くの補助金を出したいところではあるが、予算的にも厳しいためご理解をいただきたい。昨年、尾下地区では、出身者にも呼びかけ寄附を募り、500～600万で神社を建てたという話も聞く。

・個人の住宅であれば県からの補助もあるが、市の補助だけであるので地区のもので確か15%出るようになっている。

<市長>

・集落も年寄りが増え、公民館を改修しようにも、なかなかお金がない。しかし、公民館は、集落の拠り所である。このトイレ改修については、そのような意見もあるので検討させてもらいたい。

<建設部長>

・市道は、全体で約570kmある。平成22年度に過疎計画に基づき整備計画を立てたが、平成23～27年の5か年で、約240路線、距離で約81km、事業費は概算で63億円であった。現在3年目であるが、計画の25%しか進んでいない。市道改良については、過疎債という地方債を使っているが、この過疎債にも制限があり、舗装の傷みの激しい路線については、国庫補助事業の社会資本整備交付金事業の対象になるので、道路舗装整備計画を策定して適正な道路の維持管理に努めたい。厳しい財政状況ではあるが、このような有利な事業を活用して、少しでも皆さんの要望に応えられるよう取り組んでいきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

<市長>

・館長さんから、こういう意見があったということを部長からも指導して欲しい。事故でも起きると大変であるので、できることは早速させたい。土木課の職員に話をし、来週の始めには現地に行き、館長にも回答をするようにしたい。

【市民】

・市役所に、洋式トイレはあるのか。市民の方から、我々、年寄りが座る便器がないという話も聞く。できるだけ、増やしていただけるとありがたい。

<総務部長>

・今、数の把握はできていないが、洋式トイレもある。ただ、設置数が十分かという点、不足しているかもしれない。

【市民】

・最近、色々な自治体が、再生可能エネルギーでまちおこしをしている。高知県の梶原では、自分たちの使う電気は自分たちで作っていきこうと、以前から風力発電等をしており、電力会社への売電で得たお金で、個人住宅に設置する太陽光発電の補助金を出すなどしている。北九州市等では、さらに大きな発電をしている。大きな発電だけではなく、色々な所で小さな発電をしていき、エネルギーを作っていきこうという運動が、この狭い日本では必要であると思う。指宿市役所では昼休みに節電をしているが、例えば、庁舎の上に太陽光発電を作れば、エネルギーを自給できるのではと思う。また最近、温泉の発電という記事が新聞に掲載され、大規模な地熱発電ではなく、泉熱を利用した発電と、その余熱を農業にも利用するというものであった。経済産業省がいくつかそういう事例でやっていきこうとしているものもあり、鹿児島県では霧島が該当していると聞く。指宿市にも温泉があり、頼娃には風力発電もある。個人の住宅でも、太陽光発電をしている所は多い。そういう方向で、まちおこしをしてもらえないものか。福島では原子力発電所の事故により、第1次産業の人たちは苦しんでいる。鹿児島県にも川内原発があるため、そのようなことが起こり得ると思う。色々なまちで、小さな発電等を行っていくことが大事なことなのではと考えている。

【市民】

・ぜひ、今のことは考えていただきたい。地熱発電は、今の電気代の半分以下で発電ができる。また、色々な土地で熱が利用化でき、非常にいいものである。指宿は、地域的に非常に有望な地域であるので、指宿が泉源をつけて、菜の花館を地熱発電所として活かして、地域に安い電力を提供するから、企業に来て欲しいということで企業誘致を進めることもできるのではないかと。太陽光発電も有効かもしれないが、風力も太陽光も発電量が変動する。地熱発電はきちんとやっていけば、原子力発電も、化石燃料の輸入もやめられる。しかし、温泉学会の広報や雑誌には、地熱発電をすると、温泉が駄目になるということが書かれていた。当然、余りにも大規模に地熱発電をすると、それだけ汲み上げるため、温泉が枯れることもあるだろう。しかし、温泉と地熱発電は十分に共存できると思う。指宿は、非常に有望な場所であるので、地熱発電を考えていただきたい。

<市長>

・指宿の地域特性を活かしたクリーンエネルギー、つまりスマートシティ構想という考え方でまちづくりを考えられないか、活かせないかということであると思う。実は、色々な企業が、地熱発電や風力発電をしたいと相談に来ている。継続的、持続的、そして安定的に自然エネルギーとして利用できるのか、採算性はどうかということ等を含めて、企業は調査をして来たと思う。今、言われたことはすばらしい構想であり、指宿もそういう方向で目指すべきだというのは同じである。今後、この再生可能エネルギーを、どう指宿に根付かせるのかというのは、勉強をさせていただきたい。具体的にこうするという事はまだ言えないが、行政を進める一つの示唆をいただいた。また、ご意見や資料をいただければありがたい。

<上村副市長>

・経済産業省から出向して来ている。九州経済産業局から、来週 22 日に行われる地熱利用についての研修案内が来ているので、早速、担当と勉強させていただきたい。

【市民】

・5月30日の南日本新聞に、山川高校は来年、募集停止を検討するという記事が掲載された。私達も、市長が会長をしている山川高校支援対策協議会と、1年かけて十分山川高校のことを話し合っただけで9月議会に陳情するよう準備を進めている。6月21日に県議会の文教警察委員会があり傍聴に行った。そこで海江田高校教育課長は、「7月10日現在の中学生の進路希望調査に基

づいて、来年の募集定員をどうするかを9月下旬か10月初めには決めて発表したい」と答弁をしていた。山川高校がどのようになるのか非常に心配している。今後の見通しや現在の状況、県と協議内容等について説明をいただきたい。

・吉田川にふたをして道路幅を広げる工事をしている。大変、ありがたいが、1年に30mしか進まない。私は、吉田川の下流に住んでいるが、その工事が始まると3～4か月は車で離合もできない。地区の総会でも、毎年30mするのではなく、2年に1回60mしてもらえないか館長にお願いをした。現在、私の通る橋の1～2mの所で工事が止まっている。予算の関係かもしれないが、なぜあと1～2mができなかったのか。

<市長>

・山川高校については、ご意見にもあったように、何とかして地域とともに、この山川高校を盛り上げ、中学3年生が、「山川高校に行って頑張ろう。そして、指宿の農業を支えよう」と思えるような魅力ある高校にするために、市、地元、OB、そして学校とどのようなことができるか協議してきた。今年の9月議会でも予算を計上し、議員の先生方に認めてもらうことになるが、こんなに変わるのだったら私も山川高校に行きたいというような魅力的な事業をいくつか組んである。県にも、山川高校の本気度、市と一緒に頑張っているというのが見えるはずだから、変わりようを見て判断してもらいたいと言ってある。色々なご意見やご指導をいただければありがたい。

<教育長>

・7月10日現在の希望調査における山川高校の状況は、園芸工学・農業経済科の希望者数が、昨年の12名に対し今年は25名。生活情報科の希望者数が、昨年の12名に対し今年は22名となっている。昨年は、この7月10日現在の希望者数が24名であったが、最終的な入学者は31名になった。今年は7月10日現在で47名が希望しており、倍率でいくと、県下の公立高校のワースト10には入らなかった。努力により、希望者は増えている。

<市長>

・皆さん、山川地域の方々、そして学校と一緒に、山川高校の存続に向けて頑張りたい。市長は、山川高校をどのように考えているのかというマスコミの取材も来た。地元、保護者と思いは同じである。だから、市としても頑張っていくといった趣旨のことを話した。

<建設部長>

・吉田川の改修工事については、現在、水路を暗きよにして道路の幅員を広げている。住家に近接しており割高な工事になるため、予算の関係もあって1年に30m位しか進んでいないのが実状である。今年の工事区間については、住居がなく通常の工法でできる部分もあるので、予算的には同じだが60m近くの工事ができる。今年、来年と進捗は早くなると思うので、ご理解いただきたい。今の予算規模でいくと、あと2年間ですむ予定である。

【市民】

・ぜひ、福島県の学童を避難させて欲しいという要望が出ている。鹿児島県や指宿市としても受け入れることはできないか。それによって児童数も増加し、若い人たちが指宿に入ってくることもなる。

・山川高校の授業や人件費も非常に問題になってくると思うが、例えばサテライトでテレビやパソコンを使って授業をする。または、退職教員に頼んで来ていただく。または、農業研修施設があるので、研修を一般向けに受入れをするといった方法もあるのではないか。

<市長>

・実は、福島県の高校が、山川高校の空き教室を借りて授業をしようということで、教員宿舎の確保などに向けて色々動いた。勉強ができない放射能汚染地域の子どもたちを受け入れようということで、指宿が1番初めに動いたのではないだろうか。学校側も山川高校で決まりかけたときに、最終的には保護者の同意が得られなかった。

・色々な事業との連携、色々な地域での活動、その他、学校側とも一生懸命探っているのだから、いただいた意見は今後活かしたいと思う。

【市民】

・クロネコヤマトの入口から少し行くと、雨が降ると池状態になる場所があり、犬の散歩もクロネコヤマトの敷地を通っている。クロネコヤマトの出入口であるため工事も難しいと思うが、何とか対応できないものだろうか。

<市長>

・ここについても、どうにかしなければならないと検討をしている。住民から見て、どのような改修方法がよいものだろうか。

【市民】

・道路は緩やかな左カーブであり、クロネコヤマトの入口の手前には側溝がある。農免道路に上がっていく所まで側溝がないため、側溝を設けて左側の側溝に流すようにできないものか。

<市長>

・水は、新田川に流れているのか。

【市民】

・クロネコヤマトの東側に新田川があり、そこに流れる。

<建設部長>

・来週、現場を案内していただき、検討させてもらいたい。

<市長>

・二反田川は、柳田校区の大きな課題である。私も水がたまっているときに現地確認を行い、膝までつかってずっと歩いた。何とかしなければならないという強い危機感を持っているので、皆さんと意見交換をしながら、できるだけ早くこの対策は練らなければならないと思っている。

【市民】

・指宿高校西側の尾辻工務店付近は、雨が降ったら川のようになる。通学路になっているが、子どもたちが雨靴を履いていても、雨靴に水が入ってきてどうにもならない。水はけがよくなるように側溝を入れるよう要望しているが、なかなか実行してもらえない。

<建設部長>

・何とか対応方法を考えたい。

<市長>

・生活の安心・安全ということだと思う。館長さん方の思いであると思うので、すぐに対応させたいと思う。

【市民】

・柳田小学校の卒業生は、北指宿中学校と南指宿中学校に分かれる。そのため、一番、成長時代の思い出が残る小学校時代の同窓会ができない現状がある。そこで、明後日の日曜日に、北指宿中学校と南指宿中学校の1年生だけの同期会を実施する。1年生は分かれて1年経っていないので、まだ小学校時代の絆や思い出が共有できる世代だと思う。私の構想としては、今年は1年生、その次は新しい1年生と一度同期会を経験した2年生、その次は1年、2年、3年で全体の同期会ができる。そのような思いをもっているのが、学校統合の問題等もあると思うが、柳田小学校を2つに分けることについては配慮いただきたい。

<市長>

・私も、今日の参加者の中に、6年間同じクラスで学んだ友人がいる。現実には厳しい面もあるが、そういう意見もあるということを受け止めたい。